

令和８年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

自分のコンディションを把握し、病氣と向き合う力、目標の実現に向けて取り組む力、 自分を大切に思うとともに、周囲の人を大切に思う心をはぐくむ学校 ・・・・・・・・5つの輪 つながりあって ひとつの輪・・・・・・・・ 1 一人ひとりの「学ぶ意欲」を引き出し、「学ぶ楽しさ」を実感することで、治療に向かう心を育てる。 2 病氣療養中の児童生徒が、安心して安全に学ぶことで、自分の目標に向けて進もうとする意欲を育てる。 3 さまざまな人とのつながりを通して、自分も他者も大切な存在であることに気づき、お互いを認め合う心を育てる。 4 家庭・病院・関係機関との連携のもと、病弱教育への理解推進を図り、支援学校のセンター的機能を果たす専門性の向上に努める。
--

2 中期的目標

1 病弱教育における切れめのない支援の推進 (1) 入院中の学習機会を積極的に捉え、基礎学力の定着を図るとともに、表現活動を取り入れ自己肯定感を育む。 ※学校教育自己診断（学校は楽しい）肯定的評価 R10 年度 80%以上を維持（児童生徒 項目1 R5 80 % R6 89% R7 83%） (2) ICT を積極的に活用することで「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「学ぶ楽しさ」「学ぶ意欲」につなげる。 ※学校教育自己診断（教材や教え方などが工夫されわかりやすい）肯定的評価 R10 年度 90%以上を維持（児童生徒 項目2 R5 79% R6 86% R7 94%） ※学校教育自己診断（授業でパソコンやタブレットを効果的に活用している）肯定的評価 R10 年度 90%以上を維持（教職員 項目17 R5 70% R6 88% R7 93%） ※学校経営推進費事業（R7）・「リ・コネクトアカデミー・・・病氣療養児童生徒への切れめのない学びを ICT とメタバースで再びつなぐ・・・」 3年め（R9）の評価指標：（1年め・R7 2年め・R8） ①復学支援×ICT 活用：学校教育自己診断（先生は周りの人と気持ちよく過ごせるように気を配ってくれている）肯定的評価 R10 95%以上維持（児童生徒 項目9 R5 82% R6 96% R7 91%） ②アバターロボットの活用：学校教育自己診断（授業は教材や教え方など工夫されわかりやすく楽しい）肯定的評価 R10 90%以上維持（児童生徒 項目2 R5 79% R6 86% R7 94%） ③メタバース空間の活用：学校教育自己診断（パソコンやタブレットを効果的に活用している）肯定的評価 R10 90%以上維持（教職員 項目17 R5 71% R6 88% R7 93%） (3) 児童生徒一人ひとりのニーズに応じたキャリア教育・進路指導を行うことができるよう校内体制の充実を図る。 ※学校教育自己診断（自分の将来や進路について考える機会がある）肯定的評価 R10 年度 70%以上をめざす。（児童生徒 項目4 R5 63% R6 64% R7 70%） (4) 復学支援の推進 ※学校教育自己診断（学校は病棟と連携して教育活動を行っている）肯定的評価 R10 年度 90%以上を維持（病院関係者 項目5 R5 91% R6 89% R7 89%） ※学校教育自己診断（学校は前籍校や病院と連携して指導にあたっている）肯定的評価 R10 年度 95%以上を維持する。（保護者 項目12 R5 97% R6 97% R7 100%） 2 病氣のある児童生徒への支援の充実を図るための専門性の向上と支援の継承 (1) センターの機能の一つとして、病院と連携した公開セミナーを企画実施し、地域校とともに病弱教育の専門性の向上に努める。 ※オンライン等を活用し、公開セミナーの総参加者数 600 人以上を維持する。 (2) 本校にある筋ジストロフィー、心身症、慢性疾患等に関する教育実践を地域支援として活用していく。 ※学校教育自己診断（地域支援は十分に行われている）肯定的評価 R10 年度 90%以上をめざす。（教職員 項目22 R5 90% R6 85% R7 89%） (3) 教育実践の振り返りを行い、病弱教育の専門性の継承につなげる。 (4) 国立特別支援教育総合研究所等への研究協力や全国、近畿の病弱支援教育団体と連携しながら、単独の病弱支援学校としての役割を果たす。 ※学校教育自己診断（受講した研修を教育実践に役立てている）肯定的評価 R10 年度 90%以上を維持する。（教職員 項目16 R5 90% R6 90% R7 95%） 3 安全・安心な学校づくり (1) 病弱支援学校における学校行事の重要性を鑑み、全校、各部署で最適な学校行事を計画し進める。 ※学校教育自己診断（運動会やお楽しみ会などの行事は楽しく参加できた）肯定的評価 R10 年度 85%以上を維持する。（児童生徒 項目10 R5 79% R6 90% R7 85%） (2) 病弱教育における自立活動の在り方を全部署で検討し、児童生徒理解、人権擁護につなげる。 ※学校教育自己診断（人権意識の向上）肯定的評価 R10 年度 90%以上を維持する。（教職員 項目12 R5 96% R6 86% R7 91%） (3) 危機管理体制（個人情報 の適正管理、教育活動中の事故防止、医療的ケアの実施、感染症対策）について徹底して取り組む。 ※学校教育自己診断（個人情報に関する管理システムを適正に活用している）肯定的評価 R10 年度 95%以上を維持する。（教職員 項目15 R5 87% R6 92% R7 98%） (4) 災害時の対応について各部署で確認し校内体制を整備する。 ※学校教育自己診断（防災教育・安全指導を児童生徒に応じて行っている）肯定的評価 R10 年度 80%以上を維持する。（教職員 項目23 R5 62% R6 91% R7 91%） 4 労働安全管理体制の充実 (1) 大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する。 ア ICT を活用した効率的な会議運営を進める。 イ 本校・分教室間の連携を深め、同僚性を高めるため、対面の会議等を設定する。 ※学校教育自己診断（業務上の悩みを相談できる環境である）肯定的評価 R10 年度 75%以上を維持する。（教職員 項目18 R5 75 % R6 75% R7 75%）
--

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和 年 月実施分〕	学校運営協議会からの意見

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標〔R7年度値〕	自己評価
1 病弱教育における切れめのない支援の推進	(1) 入院中の学習機会を積極的に捉え、基礎学力の定着を図るとともに、表現活動を取り入れ、自己肯定感を育む。	(1) ア 「個別の指導計画」を活用し、在籍期間の個々の目標を明確にして教育活動を行い円滑な復学につなげる。 イ 表現活動を積極的に取り入れ、自己肯定感の向上につなげる。 ・「とねやまかるたりレー」に各部署で取り組む ・外部コンクールへのチャレンジ（絵画、標語、本の帯など） ウ 授業力の向上をめざした教員研修の充実 ・全校教科研修会（年2回） ・部署研修 ・大阪府教育センター実施の研修への参加 ・初任者研修等に係る研究授業を実施し教員全体の資質向上に資する。 ・枚方市、豊中市教育委員会実施の教科に関する研修参加	(1) アイ 学校教育自己診断（児童生徒）「学校は楽しい」肯定率 80%以上を維持〔83%〕 ウ 学校教育自己診断（教職員）「研修を教育実践に役立てている」肯定率 90%以上を維持〔95%〕	
	(2) ICT を積極的に活用することで「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、「学ぶ楽しさ」「学ぶ意欲」につなげる。	(2) ア ICT を活用した社会見学や部署間交流の推進 ・WEB 校外学習 ・ロボットプログラミング選手権参加 ・アバターロボット、メタバース活用 ※ 学校経営推進費事業（R7） 「リ・コネクトアカデミー・・・病気療養児童生徒への切れめのない学びを、ICTとメタバースで再びつなぐ・・・」 イ 校内 ICT 研修会の実施	(2) ア 学校教育自己診断（児童生徒）①「行事は楽しく参加できた」肯定率 90%以上をめざす〔85%〕 ②「授業でパソコンやタブレットなどを使っている」肯定率 70%以上を維持〔84%〕 ③「授業は教材や教え方など工夫され、わかりやすく楽しい」肯定率 90%を維持〔94%〕 イ 学校教育自己診断（教職員）「情報機器を授業などで効果的に活用している」肯定率 90%以上を維持〔93%〕	
	(3) 児童生徒一人ひとりのニーズに応じたキャリア教育・進路指導を行うことができるよう校内体制の充実を図る。	(3) ア 進路を見通したキャリア教育と日常におけるキャリア教育を意識して進める。 （設定キャリア教育とキャリア教育に関連した指導の推進） イ 「個別の教育支援計画」を活用し、本人、保護者、教員が同じ方向性をもって将来の社会参加に向けた教育活動を進める。	(3) ア 学校教育自己診断（教職員）「キャリア教育の視点をもって授業づくりをしている」肯定率 80%以上を維持〔96%〕 イ 学校教育自己診断（教職員）『「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」について本人・保護者のニーズをふまえ作成している』肯定率 95%以上をめざす〔93%〕	
	(4) 復学支援の推進	(4) ア ケース会議（退院時カンファレンス）を病院と連携し円滑に進める。 イ 地域校との連携を必要に応じて行い、円滑な復学につなげる。	(4) ア 学校教育自己診断（病院関係者）「学校は病棟と連携して教育活動を行っている」肯定率 90%をめざす〔89%〕 イ 学校教育自己診断（保護者）「学校は前籍校や病院と連携して指導にあたっている」肯定率 95%以上を維持〔100%〕	

2 専門性の向上と支援の継承	(1) センターの機能の一つとして、病院と連携した公開セミナーを企画実施し、地域校とともに病弱教育の専門性の向上に努める。 (2) 本校にある筋ジストロフィー、心身症、慢性疾患等に関する教育実践を地域支援として活用していく。 (3) 教育実践の振り返りを行い、病弱教育の専門性の継承につなげる。 (4) 国立特別支援教育総合研究所等への研究協力や全国、近畿の病弱支援教育団体と連携しながら、単独の病弱支援学校としての役割を果たす。	(1) 病院と連携した公開セミナーの実施 【訪問】筋疾患、心疾患等 【阪大】病気療養児のための研修会 【滝井】滝井セミナー 【精神】輪になって支えよう研修会 (2) 地域支援の取り組み ・地域校への巡回相談の実施 ・研修講師派遣 (3) ア 実践報告集「とねやま9号」をまとめる。 ・12月までに原稿を収集し年度内にHPに掲載する。 イ 共有できる教材の蓄積を図る。 “ふしぎなポッケ 刀根山支援” (4) 全国、近畿・東海・北陸地区、大阪の病弱教育研究会において校内で役割を整理し、効果的に研究を進める。 研究大会で積極的に発表する。 【全国】8月 三重大会（近病連兼ねる） 【近畿・東海・北陸】定例理事会 5月、7月、1月 【大阪】定例理事会 5月、1月 交流会 8月	(1) オンライン等も活用し、公開セミナーの総参加者数600人以上を維持 〔691人〕 (2) 学校教育自己診断（教職員）「地域支援は十分に行われている」肯定率90%以上をめざす〔89%〕 (3) ア 実践報告集「とねやま9号」を3月末までに作成し、学校ホームページに掲載する。 イ 学校教育自己診断（教職員）「児童生徒の実態をふまえ、学習内容・方法の工夫・改善を行っている」肯定率95%以上維持〔98%〕 (4) 各定例理事会、研究会への参加 ・全病連（近病連）分科会発表 1本以上 ・学校教育自己診断（教職員）「受講した研修を教育実践に役立てている」肯定率90%以上維持〔95%〕	
-------------------	---	---	--	--

3 安全・安心な学校づくり	(1) 病弱支援学校における学校行事の重要性を鑑み、全校行事に加え、部署ごとに最適な学校行事を計画し進める。 (2) 病弱教育における自立活動の在り方を全部署で検討し、児童生徒理解、人権擁護につなげる。 (3) 危機管理体制（個人情報適正管理、教育活動中の事故防止、医療的ケアの実施、感染症対策）について徹底して取り組む。 (4) 災害時の対応について各部署で確認し校内体制を整備する。	(1) 【全校】WEB 校外学習、ロボットプログラミング大会、WEB 音楽会 【各部署】運動会、学習発表会、作品展、新入生を祝う会、卒業生を送る会、季節のお楽しみ会など ・関係する分掌や教科会を中心に進める。 (2) ア 病弱教育における自立活動の取り組みについて改めて確認し、本校・訪問教育部、4分教室で計画して進める。 自立活動の観点を日常の授業に意識して取り入れる。 イ 人権教育に関する研修を年間3回実施し、人権意識の向上につなげる。 (3) 想定される学校事故について注意喚起しながら危機管理を進める。 ・年度当初に個人情報の取り扱いについて周知し本校の管理体制を確認する。 ・朝会連絡や職員会議など折に触れて情報共有、注意喚起する。 ・ヒヤリハット事例を共有し再発防止に努める。 (4) ・防災マニュアルについて年度当初に周知し、各自の役割を確認する。 ・部署ごとの避難訓練を実施する。 ・災害備蓄品の管理・運用を進める。	(1) ①学校教育自己診断（児童生徒）「行事は楽しく参加できた」肯定率 85%以上を維持 [85%] ②学校教育自己診断（教職員）「児童生徒が楽しく行事に参加できるよう工夫・改善を行っている」肯定率 90%以上を維持 [98%] (2) ア 自立活動に関する研修を本校・訪問教育部、4分教室で学期に1回以上実施する。 イ 学校教育自己診断（教職員）「人権教育に関する研修に参加し、人権意識の向上に努めている」肯定率 90%以上を維持 [91%] (3) 学校教育自己診断（教職員）「個人情報に関する管理システムを適正に活用している」肯定率 95%以上を維持 [98%] (4) 学校教育自己診断（教職員）「防災教育・安全指導を児童生徒に応じて行っている」肯定率 80%以上を維持 [91%]	
4 労働安全管理体制の充実	(1) 大阪府立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画に基づき働き方改革を推進する。	(1) ア ICT を活用した効率的な会議運営を進める。 ・全校 WEB 職員会議 6、9、10、11、1、2（月） ・WEB 労働安全衛生委員会（毎月） ・WEB 分掌会議 イ 本校分教室間の連携を深め、同僚性を高めるため、対面の会議等を設定する。 ・全校職員会議 4、5、7、8、12、3（月） ・全校人権研修 7、8、12（月） ・全校教材研修会 7、12（月） ・同僚性向上研修 5月 ・運営委員会 毎月	(1) ア 年間の時間外在校等時間が 720 時間を超える教職員をゼロにする。 イ 学校教育自己診断（教職員）「業務上の悩みを相談できる環境である」肯定率 75%以上を維持 [75%]	